

州サポート機関

Loving Solutions for Tough Kidsは年齢5～10歳までの子供を持つ親を対象とした育児サポートプログラム。子供の反抗、学力低下、不登校、喫煙などの問題を抱えた親に対し、専門のカウンセラーが週に一度の割合で面会、指導していく(全7週間)。

Parent Projectは10代の子供を持つ親を対象としたサポートプログラム。不登校、暴力、ギャンググループに関与、学力低下、違法行為、家出や自殺をほめかすなどの問題を抱えた親に対し、問題解決に向けて対処法(6週間)更正・再建(4週間)の2段階に分けたクラスを提供、指導していく。コースは無料だが、参加者はワークブック(\$24.00)の購入が義務づけられている。

*Loving Solutions for Tough Kids, Parent Project共に詳細はParent Community Networking Centers(PCNC)電話733-4737まで。

Early Intervention Sectionは0歳から3歳までの子供の成長、発達に関する疑問や心配を持つ親に対するサポートプログラム。運動能力や会話力、理解度、感情、社会性などの発達の具合をテストし、特別なサポートが必要な場合は子供に適したプログラムを紹介する。詳細はHawaii Keiki Information Service System(H-KISS)電話973-9650、またはウェブサイトwww.hawaii.gov/health/family-child-health/eisまで。

Respite Care Programは生後6週間から5歳までの子供を持つ親で、育児のストレスに悩んだり、休息を必要とする人のための無料のサポートプログラム。育児ケアの訓練を受けた信頼できるスタッフが週に1度、3時間、親に代わって子供の世話をしてくれる。子供の発達を助ける遊びやアクティビティを提供しているほか、親同士が交流を深める場も用意されている。詳しくはParents and Children Together(PACT)電話841-1027、またはウェブサイトwww.pacthawaii.orgまで。

育児、家庭の問題に関するその他のサポート機関: The Institute for Family Enrichment (TIFE)/596-8433: Child and Family Services (CFS)/521-2377: Family Services Center Naval Station, Pearl Harbor/472-4222: The Parent Line/526-1222: Hawaii Dads Coalition/841-2245

ハワイで日本語学習

子供にはなんとしても日常会話程度の日本語を学んで欲しいと思う。日本語しか話せない日本のおじいちゃん、おばあちゃんのためでもあるが、やはり母国語で思う存分、彼女と語り合いたいし、説教や親子喧嘩は日本語でやりたい。

日本語が飛び交うハワイといえども、夫は英語しか話せないし、学校に通うようになれば、先生も級友との会話も英語だ。私が努めて日本語で話しかけたり、教えてあげなければ、憧れ々の「日本語での親子喧嘩」の実現は難しいだろう。

そんなことを心配していたら、友人から「NHKの子供番組」おかあさんと一緒に見せて、日本語に慣れさせたら」と勧められ、早速購入してみた。歌のお兄さん、お姉さん、体操のお兄さんは皆、私が見ていた二十数年前より、ずっとあか抜けていたけど、童謡を歌ったり、マスコットが出てきたり、子供がパジャマに着替えたり、最後にはチビッコと一緒に体操したりと、構成はほとんど同じだ。

各コーナーが短く、飽きさせないから娘も気に入ったようだ。特に最後の体操になると、飛び跳ねて大喜び。そういうわ

けで我が家の日本語学習、しばらくは「おかあさんと一緒に」を教材に進めていくつもりである。そして会話をマスターしたら、次は日本語の読み書きに挑戦だ。

文教室「言葉の森」が開校しており、多くの子供たちが文章の書き方を学んでいる。そこで講師をして、浅岡佳代さんに作文上達の秘訣を伺った。

とにか、寝てあげることが大切です。お子さんが書いた作文をどんどん寝かせてあげてください。身近にいる親ならばその子の上達はきつと目に見えて分かるはず。先週でできなかったことが今週はできていることにきつと気づけるはずなのです。どんな小さなことでもいいと思います。漢字が一つ書けるようになった、読解可能な文字になってきた、「〜と思いました」を使って上手に表現できるようになってきた、などなど。大きなお子さんでしたら、全体の構成を考えて書くことができるようになって

てきた、漢字をたくさん書くことという意欲が見られる、親の意見の受け売りだとして、など。

表記上の間違いはたくさん見つかると思います。しかし、指摘するのは一つか二つにとどめ、それよりたくさん箇所を褒めてあげてください。文章中に不自然な言い回しがあった場合も、黙認して問題ありません。日ごろから大人の会話や読書がしつかりできていれば、その不自然な表現を正しいと思っ

て繰り返すことはまずありません。作文の間違いを直すことによって、子供たちが学ぶことはごくわずかです。それは、作文というものが、ダイレクトに書き手の心につながっているものだからです。むしろ、せつかく書いた内容が次々と訂正されていくこと、によって、作文が嫌になることの方が害は大きい

です。書くことは楽しいと思え、気持ちをまずは持たせてあげることが大切です。



生徒と一緒に、中央が浅岡講師



神奈川に本部を置く「言葉の森」には現在、800人余りの生徒が在籍している。写真はヒロ教室での学習風景＝写真は浅岡さん提供

さて、作文を楽しく書くためのコツです。もし、作文を書くのに慣れていないお子さんでしたら、書く前にまず簡単に絵を描かせてあげるといいでしょう。これは何々で、これは誰々、あ、そうそう、この人がこんな面白いこと言ったんだよ、と書きたいことが次々と浮かんできます。書くのに慣れているお子さんでしたら、「その人らしい言葉」が入った「会話文」や、「まるで〇〇のような」などの「たとえ」を、面白おかしい例を挙げながらアドバイスしてあげるといいでしょう。また数字や固有名詞を入れると説得力のある作文に仕上がると、名言やことわざを取り入れると作文の内容が一段、深みを増すことなども、折に触れてアドバイスしてあげるといいと思います。何を書けばいいかわからないという悩みは解消し、どんどん書き進めることができるようになってきます。

しかしながら、作文は書けば書くほど上手になるといえるものではありません。書くという作業はあくまでアウトプットです。アウトプットにはインプットが必要です。それが、本を読んだり、大人と話したりすることで、言葉の森ではその子の実力よりも少しだけ難しい内容の文章を毎日、繰り返し音読するよう指導しています。最初は意味が分からなくても繰り返し読んでいくうちに意味が分かってくるように音読によって子供たちは日本語のリズムを身につけてゆきます。自分とはまったく違う人の意見に触れることによって、共感を抱き、または違和感を覚えます。そして、言葉によって深く物事を考えるという作業を始めるのです。

「言葉の森」浅岡佳代

「言葉の森」浅岡佳代

「言葉の森」浅岡佳代

Happy New Year!
A New Year brings new promise. Like the generations before us, we will make the most of these

Happy Holidays
Best Wishes to you and yours for a safe and joyous Holiday Season and a Happy New Year

謹賀新年
日用品雑貨及び日米食品一切 オア
津元ス
電話

PINE ISLE MARKET, LTD.
謹賀新年
ラナイシティー
パイン・マー
経営者 木